



ルシー本

この本は
ふたなりっ娘
ルーシー本
成人向

私、ルーシー！
精霊魔導士をやっています。

縁あって、
フェアリーテイルという
魔導士ギルドに
お世話になっています。



でも一つだけ
困った事が…



フェアリーテイルって、
おちんちんがある人じゃないと入れないんだって。


だからフェアリーテイルのシンボルをいれたら、
女の人は自動的におちんちんが生える魔法が
かけてあるって……。
そんなの私聞いてないよ！

あーん、今日もこんなに大きく
硬くなっちゃった。どうしよう……。

きゅっ！いやん丸出し……。

きゅっきゅっ

びんびん



こんなに大きく
なっちゃうと、
スカートから
はみ出ちゃうし
パンツもはけないよ。

あーん、早く鎮めないと
外出もできない……
どうしよう！

それと……お尻が……何か変なの。
きゅんきゅんって
疼いてきちゃうし……

もう！止まらないの！
きゅんきゅんが
止まらないよ。

「どうしたの？ルーシー。」

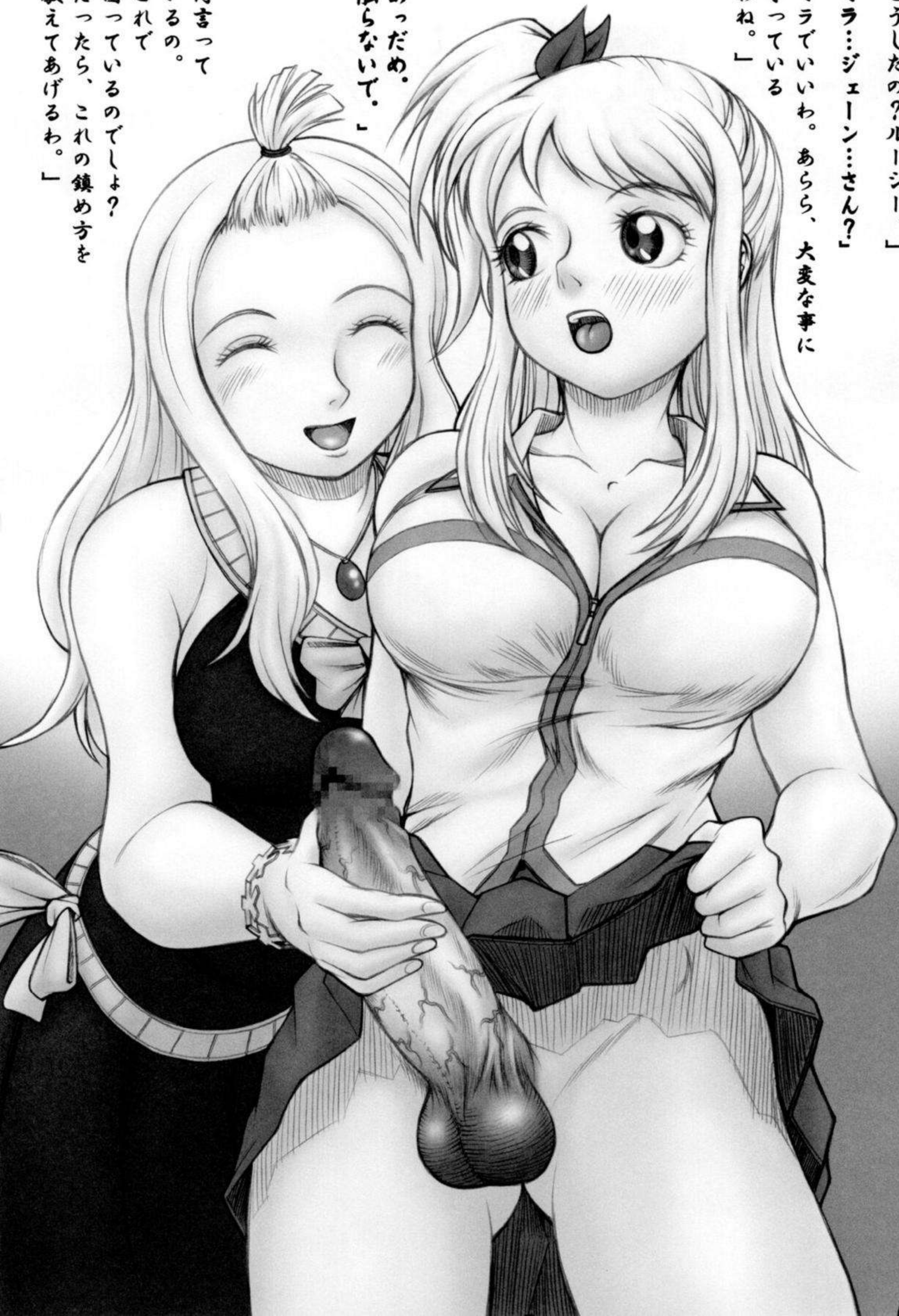
「ミラ…ジェーン…さん？」

「ミラでいいわ。あらら、大変な事になっっているわね。」

「あっだめ。触らないで。」

「何言っているの。これで

困っているのでしょ？
だったら、これの鎮め方を
教えてあげるわ。」



「あっはあっだめっ。こすっちゃだめ…
ああん。何？何か変よ…」

「何か…
こみ上げて
くる！」

「いやっ怖い。
擦らない
で…」

「何か
おかしく
なっちゃう。」

「すごい。
ビクビクって
震えているわよ。
あらあら一段と
カチカチに
硬化しちゃったあー。
そろそろいい感じみたいね。」



びる
びん
びるん



ぽっ

「え？何て？
何てやめちゃうの？」

「大丈夫よルーシー。
やめないわ。」

かぷり



かぷり
かぷり

らゅー

「うそお…
そんなの…
はあん！
あっはっ。
すごい！」

「はあっ、そんな。おちんちんしゃぶられるのが、
こんなに気持ちいいなんて…。」

「うふふ。もっとおもしろい事
してあげちゃうから。」

「あっ、だめ。袋つまんじゃ…。
はぐっ、やっ、やっ、
袋引っ張らないで…。痛っ、や。
ちぎれちゃうよ!。」

「うーん。こりっこりっつ。
こんなにタマタマが
パンパンにふくれていて、
たっぶり溜め込んで
いるのね。
これからいっばい
いっばい挿って
あ・げ・る!。」

「だめ。そんなに
強く握らないで、
つぶれる!。」



「あひっ、ひっひっひっ。来る！来る！来ちゃうーっ。何かか…、あっ、はあー」

「うーん、おいしいわ。

おいしいわ。

初モノは

一段と濃くて…

魔力も強烈」

「あひっ、

あひっ。

止まらない。

止まらないよー

気持ちいいー」



「はあっ、はあっ、何？これ…
頭が真っ白になっちゃった…」

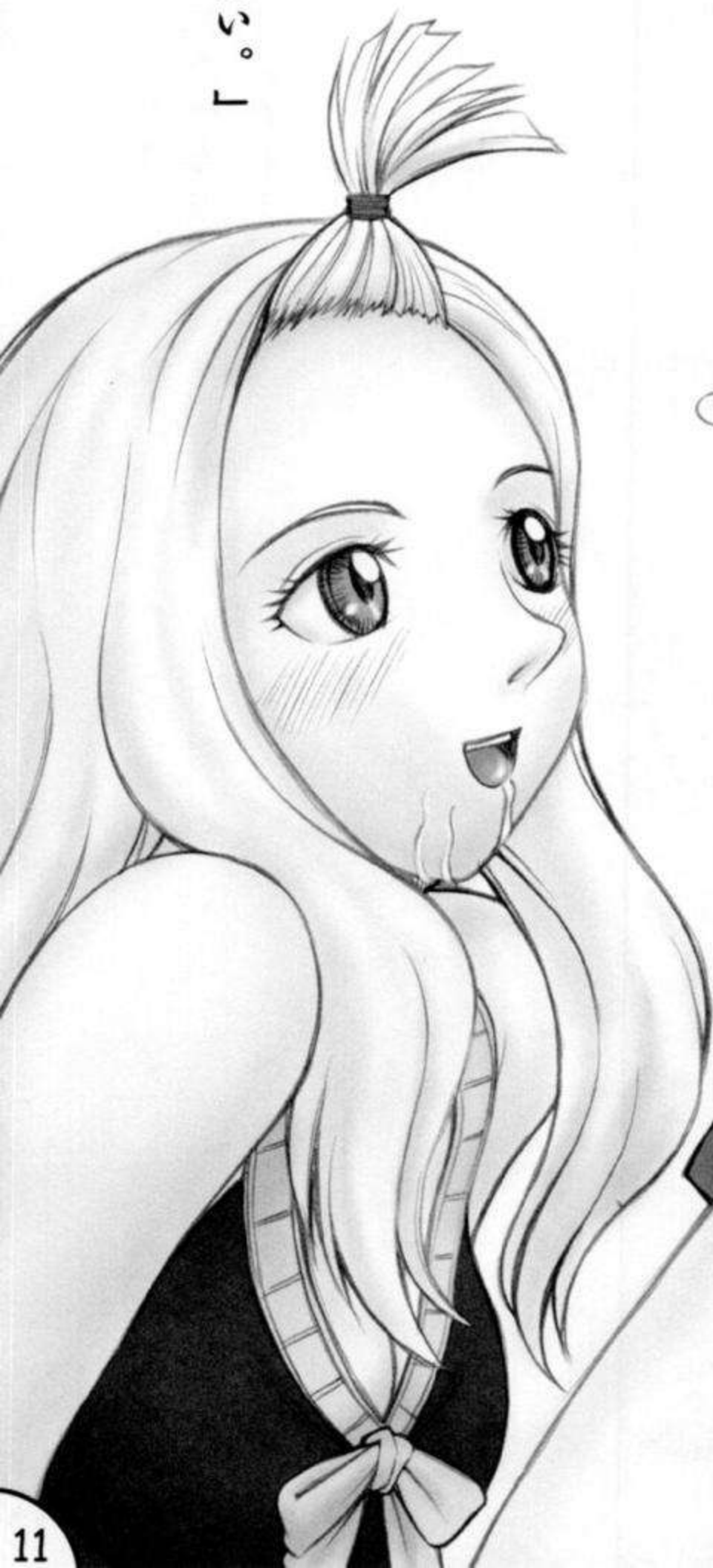
「うふふ。すごく気持ちよかった
でしょ？」



「何って言うか、体の芯が弾けたみた…い…
あっ、だめ。また大きく硬くなって…
あっ、あっ、出したい。もっと出したいの！」

「いいわよ。もっと出し方を教えてあげるから、
いっぱい出しましょ。そうねー。
まずは、色々と邪魔だから服を脱いでちょうだい。」

「うん。」



「きゃあ！
何するのミラ！」

「チンポも大変だったけど、
こっちも大変なんでしょ？
ヒクヒクとケイレンさせて
物欲しそうにしているわよ。」

「だっだめですう。
そんな…
あっはあ。」

「大丈夫まかせて。
これは私の一番の
得意技なんだから。」

「それにしても濃い茶色。
そそられるいい色だわ
くんくん。あら残念。
全然匂わないわ。」

「きれいになっているのね。
ルーシー。」

「やあん、
だめえ。
そんな所
触らない
でえ。」

「ああん、
やわらかーい。
ルーシーって
こっちで遊んでいたの？」

「だったら、もっと
指を増やして
あげなきゃ。」

「だめだめ、
そんな…
あっ。」

「はあ〜」

「2本、3本、
4本って、まあ
簡単に飲み込ん
じゃってえ。
だったら一気に
いくわよ〜。」

「やあっ、あっ、
ひっ!」

「じゃあ、及びは
射精スイツチを
握つてあげる。」

「あひっ、
あひっ、
あひっ。」

「すごいでしょ。
射精が止まらなくて、
空っぽになるまで
搾り出してあげるからね。」

「あひっ、
ひぎいっ、
ぶひーっ！」

濃いの
出ちや
つたあ！



あとがき

またもこんな所にあとがきです。そして失敗談を一つ。私、今まで「ルーシー」と表記していましたが、正解は「ルーシイ」でしたね。何の疑問も持っていませんでした。反省。

さて、この本は4月初旬から制作され、結局8月に完成となりました。途中で絵柄が変わっているなあと自覚しておりますが、制作中断が何回か続いたためです。これは体調不良が原因でして、実は今だ完治とはなっていません。何とか即売会前日までには良好な状態になっていたいのです。

それにしてもルーシイはどんどん巨乳になっていきますなあ。最初から乳デカッて思っていました。先日の作画ではとうとう頭と同サイズに！原画や作監によってサイズは変わるでしょうが、ほどほどにね、ほどほどに。しかし、あのスタイルでお色気作戦毎回失敗って…どういう事？

体調不良といっておきながらプラモデルは作りました。とはいえやはり体調不良。少ないです。

トランペッター。オソリオ。アーマーモデリング別冊にてあるモデラーの方が、「表面のモールドは全て削り取って、隙間をパテ埋とヒケ修正で面出した後に、削ったモールドを自作の方が早い。」とあったが、そんな面倒くさい事していただけるか！と思っただけで実際作ってみたら、モデラーの方が指摘していた通りだった。特に砲塔後部！天下無敵のものぐさモデラーであるはずの私が自作するハメに…。今となっては車体後部も自作すればよかったと後悔。

ドラゴン。ラング(A)。オソリオ制作途中で少々あきてきたので、ドラゴンのキットなら早く出来るだろうと思って制作を始めた。また、リニューアルキット発売が発表されていたので、旧キットをさっさと作ってしまおうとも思っていたのだが、これがまた少々手間のかかるキットだった。まず装甲の組み継ぎが実車と全く違う。車体下部の前面装甲が薄過ぎないか？車体下部後面の作りが、はるか昔に作られた田宮模型(4号戦車だが)より劣る。という物だった。結局は装甲の組み継ぎをパテ埋め、面一加工、削り直して、ついでに跳弾防止板を追加工作。車体下部の前面はプラ板で増厚し、装甲の継ぎ目を加工。トラベリングロックのパネを追加工作。車体上部の小フックのモールドを削り落として作り直したが、これはオーバースケールになってしまった。車体下部後面は作り直すと大変かなと思ったので、そのままとした。覆帯はAFVクラブの車結可動覆帯を使ってみたかったので、時代違いとわかってはいたが使った。値段は安いし出来はかなりいいと思う。ただ可動とするには覆帯が外れ易いので、接着固定をおすすめする。

田宮模型からBT-42が発売されたのにはおどろいた。車両数が少なく、マイナー戦車といっているのだが、イースタンエクスプレス製品に泣いていた人達にとっては大いなる福音となったはずである。これでうちにあるイースタンエクスプレス製品を素組みで作っても後悔はなくなったよ。ありがとう田宮！ついでにBA装甲車シリーズも出してくれないかな。いや、それより10式戦車だろ！

奥付 サークル名 ANA

発行日 2011.8.14

連絡先 乱丁・落丁等による返品・返金と、御意見・御感想の受付は、イベントサークルスペースにて行ないます。

本作は成年向となっておりますので、18歳未満の方の閲覧は禁止します。